

がん対策の推進に関する意見交換会について

愛知県がんセンター研究所
所長 田島和雄

日本の地域がん登録情報、人口動態統計によりますと、21世紀に入って毎年60万人以上の人たちが新たにがんと診断されており、30万人以上が亡くなっております。その数は2020年までに50%増加するものと推定されております。そして、日本人の二人に一人は何らかのがんに罹る時代がやってきております。がんの罹患数と死亡数を同時に低減していくためには、がんの一次予防と二次予防対策を効率よく推進していく必要があります。その対策の効果を評価するためには精度の高い地域がん登録の情報が不可欠です。

日本人の主ながんの原因として、1) 慢性感染症（腫瘍ウイルスやピロリ菌など）、2) 喫煙・飲酒習慣、3) 食生活・運動習慣の歪み、などが重要であり、私たちの日頃の生活改善や環境操作によりがんの罹患率の低減を図ることができます。愛知県で活用しているがん予防のための日常生活の工夫として五ヶ条の標語にまとめたものを紹介しますと、1) 禁煙・節酒は鬼に健康金棒、2) 節塩料理は健康日本21愛知、3) 緑黄赤の野菜・果物健康信号、4) 多種類少量を取るバランス感覚、5) にこにこ運動30分週2回、になります。

一方、がんの罹患率がこれだけ高くなりますとがん死亡から如何に免れるか、これからのがんの一次予防のみならず、早期の診断・治療によりがんで死なないようにする二次予防が重要であります。一般に、40歳以上の中高齢を過ぎて一度もがん検診を受けたことのない人は、相対的にがんの発見される率が高くなり、進行がんで見つかる率も高くなります。その結果、がんによる死亡率も高くなります。

さらに、一度目のがんから生還できても二度目、三度目のがんの危険度に脅かされますから、常にごがん予防が重要になるのです。この数十年間に変貌してきた日本人のがんの流行とその背景要因、さらにごがんの罹患・死亡数を減らしていくためにはどのような工夫が必要か、疫学研究者の立場で解説しながら皆様とともに今後の実質的なごがん対策について考えてみたいと思います。

参考資料

- 1) 田島和雄監修 がん予防の最前線（上巻）基礎知識から新戦略へ 昭和堂 2004年
- 2) 同（下巻）最新の研究成果と予防戦略 昭和堂 2004年
- 3) がん予防への案内(<http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>)

がん罹患数を20%減らすためには？

- 1) 腫瘍関連感染症の効果的対策を進める
- 2) 禁煙、防煙、分煙対策を徹底する
- 3) 健康運動による肥満予防を促す

がん死亡数を10%減らすためには？

- 4) 40歳過ぎて一度も検診を受けない
高危険群に定期検診の受診を促す

罹患・死亡数の低減を評価するには
地域がん登録の法的整備は不可欠である